

途上国向け道路技術支援の方策検討におけるオーラルヒストリー調査の有効性 —東アジア地域における自然条件と社会構造変化の類似性に着目して—

国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 ○曾根 真理
国土交通省国土技術政策総合研究所 松岡 禎典
国土交通省国土技術政策総合研究所 薄井 宏行

1. はじめに

東アジア地域における道路関連事業の投資需要は、2010年から2020年までの10年間で約2.3兆円と見積もられている¹⁾。政府は道路等のインフラシステムの海外展開を重要な施策として掲げ、東アジア地域の途上国における投資需要を取り込むための様々な取組を進めている²⁾。

主な課題の一つとして、日本が目指す技術の高さと途上国が求める技術のミスマッチがあり²⁾、途上国向けの技術支援の内容を再考する必要性が指摘されている^{2), 3), 4)}。気象や人口構成等の自然条件や社会構造の変化が類似すれば、戦後の日本の経験は途上国における課題解決に寄与すると考えられる。ところが、日本が直面した道路行政課題とその解決過程は十分に明らかにされていない。

本稿では、当時の課題とその解決過程を明らかにする手法として、オーラルヒストリー調査の有効性を指摘する。オーラルヒストリーとは、「公人、専門家による、万人のための口述記録」である⁵⁾。

2. 日本と東アジア地域の自然条件の類似性

図1は世界の降水量分布である。日本や東アジア地域の降水量は欧米地域と比較して多いことがわかる。降水は、水たまりの発生等により交通状況に悪影響を及ぼすだけでなく、路肩部の破壊を引き起こす。降水量の多い日本の降水管理基準の適用性は、東アジア地域の途上国において高いと考えられる。

図2は世界の震源地の分布である。プレート端部に位置する日本、インドネシア、ミャンマー等は、世界でも有数の地震発生地帯であることがわかる。日本の道路構造物は高い耐震性を要求される。このため、日本の道路構造物の耐震基準の適用性は、東アジア地域の途上国において高いと考えられる。

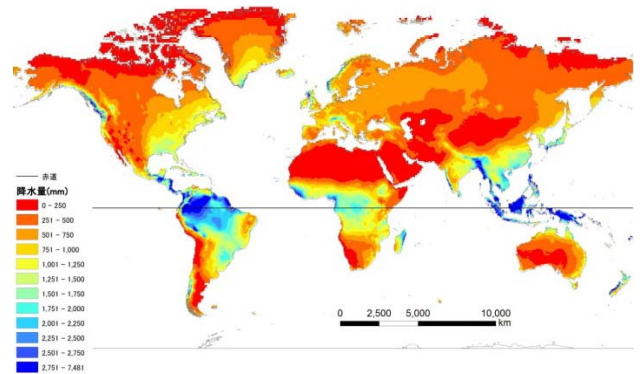


図1：世界の降水量分布⁶⁾

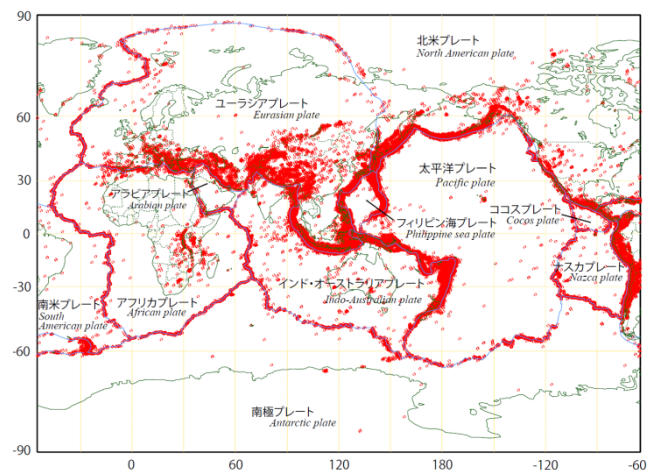


図2：震源地の分布⁷⁾

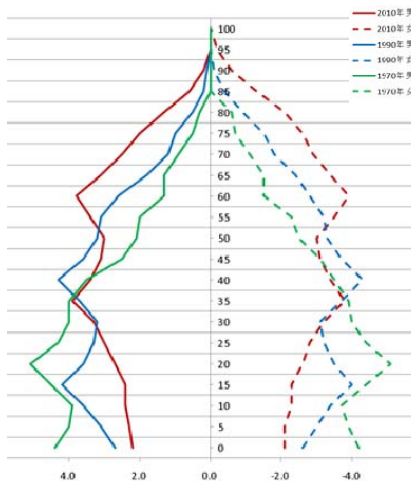
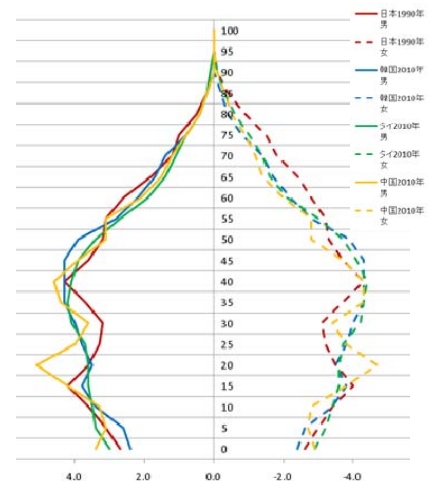
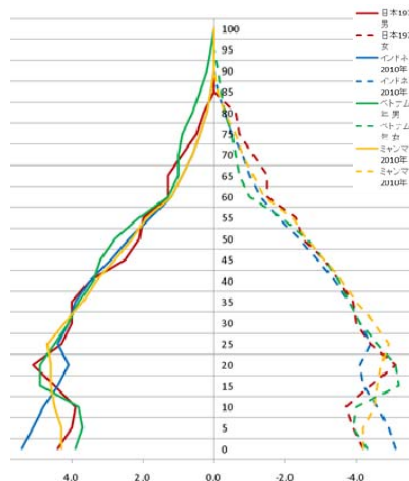
3. 日本と東アジア地域の社会構造変化の類似性

図3は、1970年、1990年、2010年の3時点における日本の人口ピラミッドである。それぞれ、高度経済成長期、バブル経済期、現在に該当する。人口構成比が高年齢層に推移していることがわかる。

図4左は、1990年の日本と2010年において生産年齢人口比率が高い韓国、タイ、中国の人口ピラミッドである。また、図4右は、1970年の日本と2010年において若年層人口比率が高いインドネシア、ベトナム、ミャンマーの人口ピラミッドである。それぞれ、人口ピラミッドは類似していることから、1)

キーワード 道路 技術 国外展開 東アジア オーラルヒストリー

連絡先〒305-0804 茨城県つくば市旭1 国土交通省国土技術政策総合研究所国際研究推進室 Tel:029-864-4593

図3：日本の人口ピラミッドの推移⁽¹⁾図4：日本の人口ピラミッドとの比較⁽¹⁾（左：1970年，右：1990年）

韓国，タイ，中国は20年後に現在の日本の年齢構成に類似すること，2)インドネシア，ベトナム，ミャンマーは20年後に1990年代の日本の年齢構成に類似することが予想される。

4. 過去の日本と今日の東アジア地域の途上国が直面する課題の類似性とオーラルヒストリー調査の有効性

日本と東アジア地域の自然条件と社会構造変化は類似することがわかった。高度経済成長期の日本では，農村部から都市部への急激な人口移動により，社会構造は急激に変化した。これに伴い，道路等のインフラ整備も急速に行われ，交通安全対策が重要課題であった。東アジア地域の途上国においても，類似の傾向がある。道路網の整備と自家用車の普及により，交通安全対策が喫緊の課題である。

図5のように，日本と東アジア地域における自然条件，社会構造変化，近代化の類似性から，今日の東アジア地域における道路行政課題は，日本が過去に経験したものと類似すると推測される。このため，オーラルヒストリー調査により，日本が過去

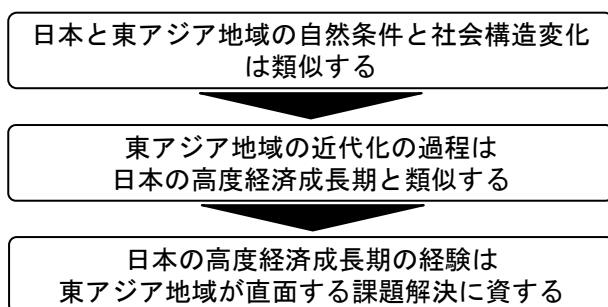


図5：日本と東アジア地域の類似性

に直面した道路行政課題とその解決過程を明らかにすることは，途上国向け技術支援の方策に資すると考えられる。

5. おわりに

日本と東アジア地域の途上国は，自然条件と社会構造の変化が類似するだけでなく，直面する課題も類似することがわかった。このため，日本が過去に直面した道路行政課題とその解決過程を明らかにすることは，途上国向け技術支援の方策に資すると考えられる。

国土交通省国土技術政策総合研究所では，日本における過去の発展過程等に関する専門家へのインタビュー調査等で構成されるオーラルヒストリー調査を実施し，「アジア諸国への道路分野における技術輸出方針に関する検討会⁽²⁾」において，技術の海外輸出方策素案を作成するための意見交換を実施している。

補注

- (1) Population Pyramids of the World from 1950 to 2100 (URL: <http://populationpyramid.net/>) のデータを加工して作成した。
 (2) 構成員は，大内雅博教授（高知工科大学），清水哲夫教授（首都大学東京），加藤浩徳教授（東京大学），七條牧生（国土交通省）等である。

参考文献

- アジア開発銀行（2009），Infrastructure for a Seamless Asia.
- 宮田亮（2014），インフラシステム輸出戦略，着々具体化へ政府，高速道路会社が多彩な取組展開へ，雑誌「道路」，no.876，pp.12-15.
- 木村亮（2014），道路分野にインフラ輸出に求められるものとは，雑誌「道路」，no.876，pp.4-9.
- 宮本和明（2012），海外インフラプロジェクトの現状と課題，雑誌「道路」，no.852，pp.4-9.
- 御厨貴（2002），オーラル・ヒストリー 現代史のための口述記録，中公新書。
- 大阪教育大学山田地理研究室ホームページより引用。（URL: http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~syamada/map_syamada/PhysicalGeography/C1110Precipitation_World.jpg）2015年3月18日閲覧。
- 気象庁ホームページより引用。（URL: http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html）2015年3月18日閲覧。